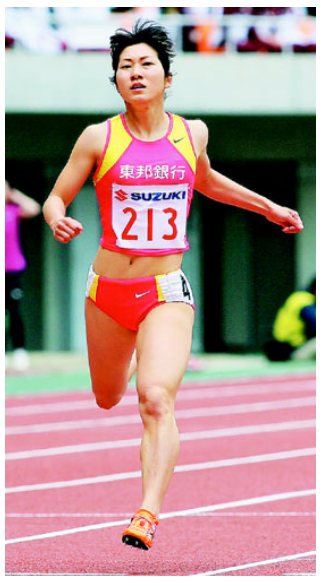
福島200㍍4連覇

静岡国際陸上 400の佐藤は6位

【静岡】陸上競技の日本グランプリ（GP）第4戦・第27回静岡国際大会が3日、静岡県袋井市のエコパスタジアムで行われた。女子200㍍決勝は福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）が世界陸上テグ大会参加B標準記録（23秒30）を破る23秒13で4連覇を果たした。女子400㍍の佐藤真有（東邦銀行―福島大、帯南商高出）は56秒37で6位だった。男子400メートル障害は日本記録を持つ為末大（a―mame）は本格的な復帰戦ながら5位だった。（高橋宏幸）

【女子200㍍決勝】23秒13で優勝を決めた福島千里（右）＝静岡・小笠山総合運動公園エコパスタジアム（大瀧百合香カメラマン撮影）



【女子400㍍決勝】56秒37で6位に終わった佐藤真有＝静岡・小笠山総合運動公園エコパスタジアム（大瀧百合香カメラマン撮影）

被災が影響、タイム伸びず　佐藤

女子400㍍タイムレース決勝の佐藤真有は2組5着で全体順位は6位。今季初戦は56秒37とタイムも伸び悩み、「ずっと同じ感じで走ってしまった。レース構成やスピードを全体的に立て直さないと行けない」と反省の言葉が漏れた。

今季の開幕直前、東日本大震災で、活動拠点の福島が大きな被害を被った。地震が起きたときは夫の実家がある仙台市におり、3月はそのまま30日まで仙台市に滞在。練習どころではなく、約2週間陸上トラックにも通えなかった。4月に入り、チームメートと合流して東京都内の味の素ナショナルトレーニングセンターで合宿。同月24日にようやく本拠地・福島大での練習が始まった。シーズン直前の大事な時期で遅れを取り、「（コンディションは）半分いかないくらいですかね」とまだ調整段階の様子だ。

今季から所属も福島の東邦銀行に移り、「いろんなことがあった中で、こうやって陸上部を持ってくれた。自分たちにできることは走って結果を出すこと。陸上を通して、少しでも私たちにできる何かを見つけられたら」と地元への思いは増している。

アジア大会代表入りを逃した昨年の雪辱を、今年の世界選手権で果たそうという気持ちも強い。「その気持ちでこの冬はやってきた。今日のタイムは自分でもショックだけど、8日までに立て直して、日本選手権で走る見通しを立てたい。次の試合はもっと思い切ってスタートラインに立ちたい」と気持ちを切り替えていた。

不安吹き飛ばす快走　福島

福島千里が織田記念のアクシデントの不安を吹き飛ばす快走で、女子200㍍を圧勝。「今回は、決勝のスタートラインに立てたことが良かった。走りきれて良かった。レース後の笑顔にも安堵感（あんどかん）が漂っていた。

4日前の織田記念では左足ふくらはぎをけいれんし、100㍍決勝を棄権。今季の初陣はまさかの結末となり、「ああいう形で終わってすごくショックだった」と落胆した。しかし、ただ悔しがるだけでは終わらせなかった。「あの大会がきっかけで、心と体について考えることができた。走りに関して、もっと余裕を持って楽しくやろうと思った」。走りたくても走れない苦い経験を糧に、レースに対する心構えにゆとりを持てるようになった。

今季最初の決勝レースは「久々の決勝のレースを楽しめればいいなと思っていた」と無心で駆け抜けた。「まだまだ走りやレース展開に関しては不十分」としながらも、成長株の市川華菜（中京大）に0・5秒以上差をつけ、向かい風の中で自己3番目の好タイムをマーク。織田記念の悪い流れを払拭（ふっしょく）するレースとなった。

日本新記録を連発した昨年に比べると、今季の滑り出しはおとなしいが、「（今季の）スタートは悪くても、あとは上がっていくのかなと思う」と、今年は今年でそういうスタートの切り方だと思っている」と前向きにとらえる。8日はゴールデングランプリ川崎で100㍍の仕切り直し。「今日は結果にこだわらなかった分、集中力がいつもより欠けていた。次のレースはそこをしっかりやりたい」と決意している。

復活の49秒台　為末

○…男子400㍍障害日本記録保持者の為末は全体5位となる49秒89でゴールし、両手を挙げて観客席の声援に応えた。この日33歳の誕生日を迎えたベテラン。「50秒00くらいかなと思っていたので、いい結果だった」と振り返ると、照れくさそうに笑った。

長く足のけがに悩まされてきたが、4月に金沢市で行われた記録会で北京五輪以来3季ぶりに同種目を走った。本格的な大会としてはこの日が復帰戦。「思ったより走れて（ハードルの上方に）体が浮いちゃった」と反省したが、6月の日本選手権参加標準記録を突破。「再び世界選手権で決勝に」との夢は諦めていない。「自分がどこまでできるか挑戦したい」と意欲を燃やした。

（関係分）

【女子】△予選▽◇200㍍（2組3着＋2決勝へ）▽1組＝①福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）23秒60

△決勝▽◇200㍍（向かい風0・7㍍）＝①福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）23秒13

◇400㍍（2組タイムレース）＝⑥佐藤真有（東邦銀行―福島大、帯南商高出）56秒37

その他の種目

（1位と日本選手最高）

【男子】▽200㍍　斎藤仁志（サンメッセ）20秒60▽400㍍　金丸祐三（大塚製薬）45秒74▽800㍍　横田真人（富士通）1分46秒85＝大会新▽5000㍍　イブラハム・ジェイラン（エチオピア）13分9秒95⑦深津卓也（旭化成）13分49秒86▽400㍍障害　杉町マハウ（ブラジル）49秒17②岸本鷹幸（法大）49秒27▽ハンマー投げ＝クリスチャン・パルシロ（ハンガリー）77㍍95③野口裕史（群馬綜合ガードシステム）69㍍58

【女子】▽3000㍍障害　谷奈美（ユニバーサルエンターテインメント）9分13秒02▽400㍍障害　ローレン・ポーデン（オーストラリア）56秒72②青木沙弥佳（東邦銀行）57秒03▽走り幅跳び　高武華子（福岡大）6㍍31▽ハンマー投げ　綾真澄（丸善工業）63㍍84＝大会新

今季の必勝誓い　グラウンド開き

帯広リトルシニア

今季の必勝を誓う団員

少年硬式野球のとかち帯広リトルシニア（牧田光成会長、阿部進監督、選手13人）のグラウンド開きが3日午前、市内の南町球場で行われた。選手とスタッフ、父母が参加して神事を行い、今季の安全と必勝を誓った。

牧田会長は「少人数だが力を結集して、チームワークで勝ち進んでほしい」とあいさつ。西嶋亮太主将（帯翔陽中3年）は「周りもレベルアップしているが、3年生を中心にチームをまとめ、絶対に優勝する。春季大会でベスト4に入り、全国大会に近づきたい」と決意を述べた。

日本選手権道大会のシード権を懸けた春季道大会はすでに始まっており、とかち帯広は現在予選リーグBブロックで1勝1敗。4日は帯広の森球場で札幌中央と、5日は札幌円山と対戦する。

球団では随時団員を募集している。問い合わせは牧田会長（090・3117・6223）か、阿部監督（090・9753・4393）へ。（古川雄介）

最終日を中止　フクハラ杯サッカー

十勝少年サッカー連盟は4日に最終日を行う予定だったフクハラ杯スプリングフェスティバルを悪天候のため中止した。天候回復が見込めず、気温も低いことから、選手の健康への影響を考慮した。代替開催は行わず、競技は3日の第1日をもって終了する。

◆全十勝中学校体育大会春季サッカー大会（3日・帯広市札内川サッカー場）

◇2回戦

札内　4－0　帯下音
池田・浦幌　1－0　帯更
帯南町　3－0　鹿追
帯緑園　4－0　翔陽
帯一　2－1　芽室
帯二　3－0　八千代
帯四　2－1　清水・新得
札内東　4－0　大樹

◇準々決勝

帯南町　2－0　帯緑園（PK4－3）
帯一　0－0　帯二
帯四　1－0　札内東
札内　2－0　池田・浦幌

かちまいスポーツ

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410

3年ぶりに帯広支部に戻り、全国、世界制覇への意欲を新たにする田中俊輔

「オールKOで北斗旗を」

空道　大道塾　田中が帯広へ再移籍

総合格闘武道「空道」の全日本大会中量級で最強とされる帯広市出身の田中俊輔（25）がこのほど、大道塾吉祥寺支部（東京・飯村健一支部長）から同帯広支部（飛永耕治支部長）へ籍を移した。22日に名古屋市で開催される全日本体力別選手権大会に向けて心身ともに充実しており、「オールKO勝ちで北斗旗（最優秀勝利者賞）を取る」と力強く宣言している。

田中は18歳から帯広支部で空道を始め、22歳のときの全日本体力別（2008年11月）中量級（体力指数240以下＝身長＋体重）で初優勝。翌年5月の全日本体力別で連覇を達成した。同年11月に東京で開催された第3回世界大会ではロシアの選手に優勝をさらわれたものの堂々の準優勝に輝いた。昨年11月の全日本無差別は準決勝進出を果たしながらもけがで欠場し、5位にとどまったが、国内の同クラスではトップにある。

08年夏、ステップアップを目指して打撃のスペシャリストの飯村支部長のいる吉祥寺支部へ移籍。ムエタイ式のキックボクシングの技術を磨くとともに、DEEPの柔術クラスに通って寝技もしっかりと身に付けてきた。同支部には総合格闘家の青木真也選手も通っており、練習を通して交流。空道の大会以外にもキックボクシングの試合に出場。公式、非公式合わせて7戦全勝し、総合格闘技のDEEPでは2勝1敗など、プロのリングも経験。「以前は蹴り中心のテクニシャンスタイルだったが、パンチで圧を掛け、首相撲でも戦えるようになった。相手のスタイルにも合わせられる」と急速に強さを増した。

今年2月、ロシアで開催された空道ワールドカップにも出場が決まっていたが、直前におたふく風邪類似ウイルスに感染して出場を辞退。「今戦えば前回の世界大会で敗れたロシアの選手にも勝つ自信はある」と悔しさを覚えながらも、「東京でやれることはやった。中身の濃い3年だった」と自らの成長に納得し、3月中旬、帰帯した。

スポーツPR情報局

応援に行こう

（5～12日）

■第35回全十勝ジュニア単・複テニス選手権大会最終日＝5日、帯広の森テニスコート。

■第14回道高校春季サッカーフェスティバル帯広大会最終日＝5日、白樺学園高、帯広三条高、帯緑陽高、帯大谷高、帯柏葉高、帯北高、中札内交流の杜サッカー場。

■第19回春季全道リトルシニア予選リーグ＝5日、帯広の森野球場。

■ボカリスエットU―12サッカーリーグin北海道十勝地区リーグ開幕＝7日、十勝川河川敷サッカー場。10月8日まで。

■第5回会長杯争奪春季中学生ソフトボール大会・春季高校女子ソフトボール大会＝7日、帯広市札内川河川敷ファミリー広場ソフトボール専用球場。

■全十勝春季高校ラグビー大会＝7日、十勝川河川敷ラグビー場。

■道ジュニアテニス選手権道東ブロックダブルス、シングルス予選＝7、8日、帯広の森テニスコート。

■春季サーキット陸上競技大会第2戦＝7、8日、帯広の森陸上競技場。

■第18回全十勝春季ミニバスケットボール大会開幕＝8日、啓西小、童里小、啓北小、稲田小、木野東小、北栄小。14、15日。

■第75回全十勝柔道選手権大会・北整全道少年柔道大会十勝地区予選＝8日、帯広の森体育館。

■NHK杯全十勝ママさんバレーボール大会＝8日、サンドームおとふけ。

■全十勝社会人春季サッカー大会開幕＝8日、十勝川、札内川サッカー場。15日。

■高円宮杯U―18サッカー道東ブロックリーグ第1、2節＝7、8日、帯緑陽高、白樺学園高。

■十勝地区カブスリーグサッカーU―15第1、2節＝7、8日、十勝川、幕別町札内川ラグビー場ほか。

■第6回丸山杯兼第40回支部長杯軟式野球大会開幕＝9日、十勝川河川敷野球場。